

会 議 録

会議名	令6年度第1回西尾市図書館協議会
日 時	令和6年7月4日(木) 午後3時～4時30分
場 所	西尾市立図書館 3階 会議室
出席者	安井会長、富田副会長、今本委員、浅井委員、深谷委員、辻村委員、伊與田委員
欠席者	桐山委員、山崎委員
市係等出席者	齋藤図書館長、生田館長補佐、小林館長補佐、黒野主任主査、古居主任主査
傍聴者	なし
<p>協議事項等については、以下のとおり。</p> <p>1 開会あいさつ 齋藤館長</p> <p>2 自己紹介 名簿順にて</p> <p>● 会長及び副会長の選出 委員からの推薦及び承認により会長は安井克彦委員、副会長は富田幹代委員に決定。</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 令和5年度事業実績について(古居主任主査より説明)</p> <p>1. 図書館事業</p> <p>(1) 図書館情報システム導入設置事業 蔵書資料の情報管理などの図書館業務で使用している図書館情報システムの長期継続契約が令和5年10月末で終了したことに伴い、11月に機器を更新しました。ICタグに反応するセキュリティゲートを設置して、令和4年度にICタグを貼付した郷土資料と参考資料の盗難防止を図りました。</p> <p>(2) 行事等の開催 市民の読書活動や文字文化の普及を図り、市民の来館の機会を増やすため本館と一色・吉良・幡豆の3分館でイベントや講座等を開催するとともに、令和2年10月から導入した読書通帳を活用し、子ども読書活動の更なる推進に努めました。</p> <p>ア 図書館主催行事</p> <p>(ア) 定例行事は、職員及びボランティアにより毎月定期に開催しているお話し会の実施状況です。</p> <p>(イ) 全館共通行事の「西尾っ子読書フェスティバル」は、西尾市子ども読書活動推進計画において定めている「西尾市子ども読書の日」に基づき、毎年4月23日前後の土日を中心に開催しています。 令和5年度は、4月22日(土)23日(日)を中心に行事を行い、人形劇団むすび座による楽しい人形劇や、家庭に本のある環境をつくるための本棚や図書館バッグを作る講座など、様々な行事を開催し、来館の促進を図りました。 「読書通帳 ガチャチャレンジ」は、11月17日から2月25日までの期間で、読書通帳に30冊以上記帳した方にガチャでオリジナル缶バッジ等をプ</p>	

レゼントするイベントを開催し、読書通帳の利用促進及び子ども読書活動の推進に努めました。

(ウ) 本館の図書館講演会では、毎年、西尾市出身の方に講師をお願いして講演会を開催しており、令和5年度は「茨木のり子さんのメッセージ」と題し、石川雅春氏の講演を実施しました。

市制70周年記念事業として開催した図書館親子絵本ライブでは、女優の室井滋氏や絵本作家の長谷川義史氏らが結成した「しげちゃん一座」による絵本ライブショーを一色町公民館カーネーションホールで開催し、読み聞かせや家読と呼ばれる家庭読書の推進を図りました。

(エ) 一色学びの館は指定管理者である(株)エムアイシーグループが運営しており、しげちゃん一座絵本ライブショーに関連した長谷川義史氏のワークショップや絵本原画展、かんたん工作などの講座を開催しました。

(オ) 吉良図書館は、図書館流通センターに業務委託をしており、講演会「どうする家康と西尾」や子ども向け講座「としょかん科楽クラブ」などを開催しました。

(カ) 幡豆図書館も吉良図書館同様、図書館流通センターに業務委託をしており、絵本作家 正高もとこ氏の講演会や植物をテーマにした大人向け講座などを開催しました。

#### イ その他協力行事

岩瀬文庫との協力行事である「第18回にしお本まつり」を開催し、子どもの本専門店メリーゴーランド店主の増田喜昭氏の講演会などを行いました。

#### (3) 子ども読書活動の推進

学校・保育園配本サービスでは、授業で利用する図書や小学校の教室に置く読書用の本として57,008冊を貸出しました。学校・保育園の来館受入れでは、保育園・幼稚園の読み聞かせが394人、小中学校の見学・調べ学習が643人、中学校の職場体験では19人を受入れました。

#### (4) 読書通帳サービス

読書通帳冊数、利用回数として、新規登録冊数が1,228冊、更新冊数が1,015冊、利用回数は50,053回となっています。年齢別貸出冊数は、15歳以下が421,533冊で一番多く全体の42.6%を占めています。

#### (5) ブックススタート

保健センターで実施される4か月児健診の赤ちゃんと保護者に絵本を介した赤ちゃんへの語り掛けの大切さを伝えました。また、絵本を1冊プレゼントして、いつでも読みきかせができる環境を作るとともに、フォローアップ行事として、乳幼児向けのおはなし会を各館で実施しました。

#### (6) 図書館ボランティア活動状況

図書館の事業はボランティア活動で支えられており、読み聞かせや本の修理のボランティアなど15グループ、年間で203回のご協力をいただきました。

#### (7) 電子図書館サービス

電子図書館の蔵書数は13,426冊で、利用状況は貸出冊数8,283冊でした。

#### (8) 障害者サービス

郵送貸出サービスとして、高齢者へ25件、29冊の貸出しをしました。また、録音図書等貸出サービスでは、デイジーが3件3冊を貸出しました。

## 2. 蔵書冊数

全館の蔵書冊数は、令和5年度は787,261冊で前年より13,557冊増えています。蔵書収集指針に基づき、図書等の購入や寄贈の受け入れ、除籍基準により蔵書管理を行っています。

## 3. 図書館利用状況

全館での入館者数は334,705人、貸出者数は217,705人、貸出冊数は1,060,269冊

です。前年度との比較では、入館者数は17,582人増、貸出者数は1,942人増、貸出冊数は5,115冊減でした。

#### 4. 主要事業委託料及び補助金

主な委託料として、電算業務委託料は、図書館システム保守委託料及びICタグの貼付の委託料です。図書館業務委託料は、分館の吉良、幡豆の図書館業務委託料です。施設維持管理委託料は、日常清掃を始めとする施設維持管理に係る委託料です。一色学びの館指定管理料は一色学びの館の業務・管理に係る委託料です。

#### 5. 考察

利用状況について前年度と比較すると、入場者104.6%、貸出者数100.9%、貸出冊数99.5%とほぼ横ばいの状況でした。

電子書籍の貸出冊数は、前年度と比較すると136.2%、予約冊数は182.0%と大幅に増加しました。定期的な新着コンテンツの購入や特集の変更を、図書館ホームページのほか市の公式LINEアカウントでも情報発信したことに加え、図書館の一般的なサービスとして定着しつつあると考えています。

一方で、電子雑誌の閲覧回数は、前年度と比較して92.2%と減少しているため、周知方法を工夫するなどしてより一層の利用増を図っていきます。

#### (質問・意見)

- ・本館の図書館講演会が好評だったとのことだが、もう少し広い場所はなかったのか。  
⇒図書館講演会として実施しており、この機会に図書館へ足を運んでほしいという思いがあるので、この本館で実施しました。まだ図書館を利用したことのない人もあるため、イベントを利用して多くの市民に図書館を利用してほしいと考えています。
- ・入館者数や貸出者数は横ばい状態だが、数字自体は高い位置での横ばい状態と考えてよいと思う。私たち小中学校の教員は、義務教育中に子どもたちと本を近づけたいと考えていて、そのことが今後の図書館利用に繋がると考えている。
- ・いろいろな企画を考えて実施しておりとても良いと思う。講師や場所探しなど大変だと思うが、今後もさまざまな企画をやってほしいと思う。

#### 報告(2) 各館の運営状況について(生田館長補佐より説明)

各館の改善レベル判定書による運営状況を報告します。項目が多いため、評価が「○」以外の箇所のみを取り上げて説明します。

#### 《1》本館の判定書について

本館については、(1)施設運営の1)人員配置・組織運営について、令和3年度に司書が1名減となり、令和5年度もそのままであるため「△」の評価としました。図書館運営の根幹をなす、蔵書を維持する選書や除籍、相談業務、アウトリーチサービスであるブックスタートや出前おはなし会の継続性の維持が難しい状況です。

(2)施設管理の4)防犯対策について、休館日に未施錠の西出入口から運送業者が入り、警備会社、警察に通報が入ったという事案がありました。日常的に荷物を届けている業者が、未施錠であったため休館日と気付かずに館内に入ったためでしたので、施錠の確認を複数人で行うことを再度徹底しました。

(4)事業展開の3)事業の質については、令和5年度は市制70周年記念事業として、女優の室井滋さんと絵本作家の長谷川義史さんらによる親子絵本ライブを企画し、好評であったことと、ブックスタートボランティア養成講座を開催し、新たなボランティアが20人ほど登録していただいたことから、「◎」としました。

その下の4)数値目標の達成度については、個人貸出点数の目標値である一人当たり7.0冊が実績では6.2冊であったため「△」となりました。目標値の7.0冊を達成するため、今後も努力していきます。

(6)利用状況・財務状況については、入館者数、利用者数ともコロナ前には戻っていないことから「△」としましたが、毎年少しずつ増加しております。

#### 《2》吉良図書館の判定書について

吉良図書館については、(4)事業展開の4)数値目標の達成度で行事の参加者が定員に達していないものがあったため「△」となりました。

(6)利用状況・財務状況の1)利用状況について、前年度との比較で入館者数は少し増加していますが、貸出冊数、利用者数は2年連続で減少しています。

#### 《3》幡豆図書館の判定書について

幡豆図書館についてはすべて「○」となっています。吉良図書館の利用者数は減少していますが、幡豆図書館は入館者数、貸出冊数、利用者数、新規登録者数のすべてで微増となっています。

#### 《4》一色学びの館の判定書について

一色学びの館の判定については、半期ごとに開催する半期モニタリング会議により所管課である私たち図書館正規職員が評価します。

上半期判定書については、(2)施設運営の事業の質を「A+」の評価としました。上期下期を通してさまざまな事業を実施しましたが、特に上期は絵本作家による絵本原画展とそれに合わせたワークショップや、毎年恒例となった読み聞かせコンサートが好評であったためです。

下半期判定書については、(1)基本項目の職員研修を「B」評価としました。図書館の専門研修について内容が希薄であり、参加人数、回数とも少ないためです。今後は専門研修の内容について助言等を行っていきます。

指定管理施設は管理運営状況等について外部評価を行う必要があることから、6月27日に外部モニタリング会議を行いました。会議の結果、一色学びの館の評価は標準の「A」となりましたことを報告します。

#### (質問)

- ・一色学びの館は(株)エムアイシーグループによる指定管理、吉良と幡豆は図書館流通センターへの業務委託とのことだが、管理や運営にどのような違いがあるのか。市の図書館とはどのように連携しているのか。  
⇒予算や許可権利など全てを与えるものが指定管理で、予算等は市で持ち、一定の業務を事業者へ任せることが業務委託です。指定管理はモニタリングによる判定をする必要があります。
- ・金額は指定管理のほうが高いのか。  
⇒施設管理に係る業務について、多くの事業者に委託しています。例えば日常清掃などですが、事務手続きを含めてた施設管理業務も指定管理の場合は、指定管理者が担います。  
ただ、図書購入の決定権及び除籍する決定は本館にありますので、一色の指定管理料に図書購入費用も入っていますが、予算の算定や購入費のチェックは本館で行っています。
- ・判定する人は図書館の職員が行っているようだが、内部の人では判定が甘くなるのではないか。外部の人が入ったほうがよいのではないか。一色は外部の人が入るので厳しく判定されてよいと思う。  
⇒この図書館協議会のメンバーが外部の代表として入ることも検討していきます。

## 報告（3）その他 市民の声について（小林館長補佐より説明）

令和5年度に図書館に関する市民の声は18件ありました。項目別に主なものを説明します。

### <図書館運営について>

- ・④⑦は一色学びの館の2階の利用方法やマナーを守らない学生に関する苦情については、利用マナー等で問題があれば職員が声掛けをすることや、2階の閲覧室内を見渡せる場所にカウンターを移動して、間違った使い方をしている人への声掛けを強化すると回答しました。
- ・⑧「サンキュ！」や「ESSE」などの婦人向け雑誌を復活させてほしいとの意見については、回答不要ですが、補足として「サンキュ！」は吉良図書館に、「ESSE」は本館と吉良図書館で所蔵しています。雑誌については、利用が集中する一部の雑誌を除きタイトル数を増やすために、1タイトルにつき1館としています。
- ・⑩のDVDの種類を増やしてほしいとの意見についても回答不要ですが、補足しますと令和5年度のDVDの保有数は5,883本で、令和4年度の5,772本から111本増加しております。

### <図書館施設について>

- ・①子どもたちが絵本を読むところにNDIR方式CO<sub>2</sub> モニターを置いてほしいとの意見については、回答不要ですが、新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から感染症法上の位置付けが5類になったことから、モニターの設置は行っておりません。
- ・③一色学びの館に談話スペースが欲しいとの意見ですが、一色学びの館に談話スペースを設置することは難しいが、一色町公民館横に「caféいろのわ」という市民が集うことのできる場所があり、自動販売機と机、椅子がおいてあります。今までは(土)(日)とイベント時に開けていましたが、今月から毎日開けています。  
この場所は、指定管理者である㈱エムアイシーグループが自主事業として、利活用を考えており、今後、コロナ前のように軽食が出せるようにする予定です。

### <職員の対応について>

- ・②職員全員の態度が悪いや、エアコンの設定温度や換気が本を読む環境になっていない、勉強やパソコンの部屋の利用方法に関する張り紙がないなど厳しい意見をいただきました。  
職員の接遇については人事課が実施する研修を受講しているが、その成果が表れていないため、このようなことのないように職員への指導を徹底します。  
エアコンの設定温度は室温を26℃に保つようにしているが、今年度からエアコンを入れる目安として、室温26℃、湿度50%以上とすることを内規で決めました。3階の学習室など各部屋の使用方法についての張り紙は、1つにまとめて見やすくしました。

## 4 議題

### 議題（1）令和6年度図書館事業計画及び予算について（齋藤館長より説明）

#### 4 図書館活動

#### (2) 図書館の施設・サービスの充実

##### ア 資料整備

令和6年度からの新たな取り組みとしては、蔵書管理の効率化や貸出・返却等のセルフサービス化による図書館サービスの充実を図るため、ICタグシステムの導入を進めていく中で、今後全蔵書に貼付し、令和10年度に図書館情報システムと連携していく予定です。ICタグシステム導入に伴う図書館情報システム更新及び今後の方向性について、この会（図書館協議会）において協議していきます。

### (3) 主な行事計画

#### ウ 講座・イベント

本館では、1月に郷土出身者やゆかりのある方による図書館講演会を開催します。講師はキューピーマヨネーズの創始者中島董一郎氏の本を書いた、西尾市亀沢町在住の高橋敬忠氏との案もありますが、現時点では未定です。

一色学びの館では、10月から11月にかけて一色町公民館及び子育て・多世代交流プラザと連携した行事として「世界の絵本展」を計画しています。

吉良図書館では、6月2日に「東西吉良氏の抗争史論争を紐解く」と題して、小林輝久彦氏による歴史講演会を開催しました。

幡豆図書館では、11月3日に「子どもの読む力を育てる」と題して、小幡章子氏による講演会を開催する予定です。

令和6年度当初予算については、令和5年度と比較して22,184,000円の減額です。減額の主な要因は、10節需要費で電気代を実績ベースに減額したこと、12節委託料で令和5年度は図書館情報システムの更新や、市制70周年記念事業として「しげちゃん一座ライブ」を開催したこと、一色学びの館指定管理料の電気代を実績ベースに減額したこと、14節工事請負費の予算計上がないことがあります。

図書購入費については、蔵書は図書館運営の根幹をなすものと考えております。平成31年度から令和6年度までの6年間における購入費用は、多少の増減はあるものの購入冊数を維持するための必要額は確保しています。

本年度はコロナ過前の利用状況に戻すとともに、市民ニーズに答えられる事業を行っていきたいと考えております。

#### (質問・意見)

- ・図書館への来館人数を増やすことについて、難しい問題であると思うが考えていかなければならないことである。「ふみくらだより」に掲載されている本を楽しみにしている。市民が見ることができるようどこかに貼ってあるのか。  
⇒館内に配布用として置いてあります。
- ・学校にも配っているので子どもがもらってくると思う。  
⇒そのことについては後ほどご説明したうえで、皆様のご意見をお聞きしたいのでよろしくお願いします。
- ・鶴城ふれあいセンターや中央ふれあいセンターで、多くの学生が利用しているのをみていると、図書館でも高校生の利用を増やすために、勉強するスペースを作ることも必要ではないかと思う。  
電子書籍の雑誌の利用が減っているとのことだが、雑誌は重いので電子雑誌で読むほうが利用しやすいと思う。今後も新しい取り組みをしてほしい。

#### 議題(2) その他

##### ≪1≫ 図書館資料ICタグ貼付作業について(黒野主任主査より説明)

図書館情報システムを使用して蔵書管理を行っており、その更新作業を令和5年度に実施しました。次回の更新は令和10年度となりますので、その際に現在実施しているバーコードによる蔵書管理からICによる蔵書管理へ移行する予定をしています。この計画については、西尾市の実施計画で令和4年度から10年度までの長期計画として承認されていますので、その準備を進めています。

令和4年度に本館の郷土資料と参考資料約3万冊にICタグを貼付したことで、令和5年度に本館にICゲートを設置したことにより郷土資料と参考資料の盗難防止が図られました。

今年度から新規購入資料については、ICタグのついた図書資料を入れるとともに本館の所蔵資料にICタグを貼付していき、令和10年度の夏までに本館、分館、配本所のすべての所蔵本に貼付し、同年度には各分館にICゲートを設置する予定です。この蔵書管理をICタグにより行うことで、例えばユニクロが実施しているような、購入する品物を指定した場所に置くだけで会計ができるシステムを参考に

した、指定した場所に置くだけで貸出しができるシステムが可能になります。

また、豊橋図書館では返却本がベルトコンベヤーで運ばれてきて一般書と児童書に分けて返却される自動返却システムを導入しています。ICタグを貼付することで貸出しや返却をシステム化することが可能となり、利用者の利便性向上に繋がると考えております。

さらに予約本の受取りについても、現在は職員が対応していますがIC化することにより、利用者が自分で予約本を探してセルフによる貸出しが可能となるため、人件費の削減ができると考えています。

この事業については、図書館協議会への状況報告及び委員の皆様からの意見を聞いて順次進めていきます。

#### (質問・意見)

- ・ICタグに代わっていくということだが、バーコードはなくなるのか。  
⇒併用していきます。
- ・費用が上乘せされるということか。  
⇒新規で購入する本はバーコードとICタグ付きのものを購入しています。
- ・図書館をよく利用しているが、職員が親切に対応してくれるので感謝している。システムが進むと受付等で職員と話すことが少なくなり、寂しい気持ちがある。

#### 《 2 》図書館だよりの学校への送付と保護者への周知について

「ふみくらだよりの」は令和5年度まではすべての小学生へは紙面で、中学校へは各教室で掲示していました。

令和6年度から図書館だよりは、教育庶務課へデータを送り、各学校から保護者へは「すぐーる」で配信されています。こちらとしてはすべての保護者へ送られていると考えていましたが、配信される内容で保護者が必要と思う情報を選ぶようになっており、その情報が入るように設定しないと保護者へ伝わらないことが分かりました。例をあげると、子ども司書養成講座の募集をしましたが、当初2人しか集まらなかったため、西尾地区の該当する学年の小学生あてにチラシを配ったところ定員に達しました。

イベント情報もすべての保護者へ伝わるようにしたいが、委員の皆様のご意見を伺いたいのでお願いします。

「すぐーる」の中の地域の情報を受信する設定を保護者がしてくれると受信できるのだが、教育庶務課によると、「すぐーる」登録者のうち地域の情報を受信している人は全体の3分1程度とのことです。

#### (意見)

- ・「すぐーる」を受信した段階で、イベント情報を受信するための設定ができるならやれると思うが、その先を強制することはできない。今いろいろなものがペーパーレスになっていて、効率的でお金もかからないが、知らなかったという事案も多い。ペーパーレス化に向けての過渡期なのではないかと思う。教育委員会の設定としてやれることがあるのではないかと思う。
- ・小学校の図書室に掲示できるとよいと思う。子ども司書養成講座は子どもが参加するイベントだから、「すぐーる」で保護者へ配信するだけでは弱いと思う。

※会長により西尾市図書館協議会を閉会